

一般財団法人 保健福祉広報協会

令和6年度 事業報告

国内外の福祉機器に関する有益な情報の提供及び保健福祉・介護等社会保障制度の啓発向上に資することを目的として、H.C.R.2024 第51回国際福祉機器展&フォーラム（以下、実展示会）を令和6年10月2日(水)～10月4日(金)の3日間にわたり東京ビッグサイト東展示ホールで開催し、**10か国2地域**から**393社・団体**が出展、延べ**120,041名**が来場した。

また、ハイブリッドな取り組みとして、国際福祉機器展 Web2024（以下、H.C.R.Web2024）を令和6年9月2日(月)～11月1日(金)の間開催し、オンライン上で**402社・団体**が出展し、**1,956,968ビュー**の閲覧を得た。

実展示会の会期中には、福祉機器の開発最前線の紹介、災害への備えを啓発するための機器展示、専門家による福祉機器利用者向けの各種相談や障害のある子どもの学習支援・リハビリ相談等を実施した。さらに、福祉のポジティブな魅力を伝える企画展示や特設ブースからのオンラインによるライブ配信、障害者への理解促進に資するためのスポーツ、アート等の多様な体験企画を実施した。

公益目的事業としては、保健・福祉・介護など社会保障分野の課題や政策動向として、アジア諸国の高齢化への対応をテーマとした国際シンポジウム、地域共生社会づくりや福祉施設におけるサービスの質の向上、認知症対策の動向等を含む各種のセミナーを実展示会にて実施するとともに、Web展においてアーカイブ配信した。さらに、保健福祉 News の発行、海外の福祉機器展示会情報の共有や国内の常設展示場の調査などを実施した。

1. 実施事業等会計事業（公益目的事業）

(1) ふくしの国際シンポジウム開催事業

① 国際シンポジウムの開催

アジア各国に共通する高齢化をめぐる課題と高齢者の自立を支えるための諸制度や支援策、取り組みの最新動向を日本、韓国、台湾、タイの4か国から講師を招聘し紹介した。また、全国社会福祉協議会が実施している「アジア社会福祉従事者研修事業」が40周年を迎えるにあたり、修了生4名からの活動報告を行った。

○テーマ

第1部「アジアの高齢化の現状と高齢者の自立生活に向けた支援」

第2部「アジア各国の社会福祉事情と修了生の活動」

○開催 令和6年10月3日(木) 13:00～16:30

○講師・シンポジスト

【第1部】

日本 柿本 貴之 氏（社会福祉法人暁谷福祉会 理事長、全国社会福祉法人経営者協議会 高齢者福祉事業経営委員長）

韓国 鄭 茂晟 氏（韓国社会福祉協議会副会長、現代車財団理事長）

成 氏（全社協アジア社会福祉従事者研修修了生）

台湾 陳 盈秀 氏（台湾衛生福利部 専門委員）

吳 氏（全社協アジア社会福祉従事者研修修了生）

タイ ソムラック・リン 氏（全社協アジア社会福祉従事者研修修了生）

<コーディネーター>湯川 智美 氏（社会福祉法人六親会 理事長、全社協国際社会福祉基金委員会委員長）

【第2部】

<全社協アジア社会福祉従事者研修修了生 発表者>

スティーブン氏 (マレーシア)、ジュリエット氏 (フィリピン)、セートウンガ氏 (スリランカ)、アニサ氏 (インドネシア)

<コーディネーター>原島 博 氏 (ルーテル学院大学 教授)

○参加者 346名 (全社協アジア社会福祉従事者研修修了生75名を含む)

○Web映像公開 令和6年10月4日～11月1日/再生回数:288回

(2) ふくしのセミナー・講座開催事業

①セミナーA<福祉の最新動向紹介>

福祉機器利用者や福祉・介護関係者にとってのサービスの質の向上、経営、制度改革など課題となっているテーマをとりあげた。特に、認知症対策セミナーでは**スウェーデンのアンナ・テニエ高齢者・社会保険担当大臣から挨拶**をいただくとともに、イェンニ・ワダ保健社会省副部長からの事例報告が行われ、日本とスウェーデン両国の有意義な情報交換の場となった。

[1]人生100年時代を豊かに生きるフレイル予防

日程 10月2日(水) 11:00～12:00

講師 藤原 佳典 氏 (東京都健康長寿医療センター研究所・副所長)

会場参加者 207人

Web映像公開 令和6年10月4日～11月1日/再生回数:551回

[2]「合理的配慮」をより身近に～アクセシブルデザインから見えてくる共生社会～

日程 10月2日(水) 13:00～14:00

講師 星川 安之 氏 (公益財団法人 共用品推進機構 専務理事)

会場参加者 117人

Web映像公開 令和6年10月4日～11月1日/再生回数:429回

[3]介護現場のリスクマネジメント～事例から学ぶ事故防止対策～

日程 10月2日(水) 15:00～16:00

講師 井上 ルミ子 氏 (Care styles consulting)

会場参加者 206人

Web映像公開 令和6年10月4日～11月1日/再生回数:483回

[4]認知症対策の国際動向～スウェーデンと日本の事例から～

日程 10月3日(木) 10:30～12:00

挨拶 アンナ・テニエ 氏 (スウェーデン高齢者・社会保険担当大臣)

村木 厚子 氏 (全社協会長)

事例報告

粟田 圭一 氏 (東京都健康長寿医療センター 認知症未来社会創造センター長)

イェンニ・ワダ 氏 (スウェーデン保健社会省 社会福祉・障害政策部副部長)

チューター 塚田 典子 氏 (日本大学商学部 教授/保健福祉広報協会 理事)

会場参加者 258人

Web映像公開 令和6年10月4日～11月1日/再生回数:420回

[5]八尾市らしい連携のかたち おせっかい日本一をめざして

日 程 10月4日(金) 10:45~11:45

講 師 岡本 由美子 氏 (八尾市役所 健康福祉部次長兼福祉事務所長)
石川 真規 氏 (社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会 地域福祉課長)
荒井 恵一 氏 (社会福祉法人 八尾隣保館 理事長)

進行・コメンテーター 山下 興一郎 氏 (全社協 中央福祉学院 主任教授)

会場参加者 107人

Web映像公開 令和6年10月4日~11月1日/再生回数:253回

[6]SGWC2024 ソーシャルグッド・ウェルフェア・カンパニー・サミット

~未来を変える issue への挑戦、その価値の輪を広げよう!~

日 程 10月4日(金) 13:00~15:30

出演者 村木 宏成 氏 (全国社会福祉法人経営青年会 会長)
櫛田 啓 氏 (社会福祉法人みねやま福祉会 常務理事)
坂下 美渉 氏 (特定非営利活動法人あきた結いネット 理事長)
垣内 俊哉 氏 (株式会社ミライロ 代表取締役)
吉藤 オリィ 氏 (株式会社オリィ研究所 所長)
平林 景 氏 (一般社団法人日本福祉医療ファッション協会 代表理事)
大津賀 花音 氏、笹沢 杏有深 氏 (長野県上田千曲高校 生活福祉科)
佐藤 舜 氏 (大阪府桃山学院大学 FIOREI)

会場参加者 211人

Web映像公開 令和7年2月5日~

② セミナーB<福祉機器の利活用ステップアップ講座/グローバルセミナー>

介護支援専門員や介護職等の専門職の知識・技術の向上を図るための福利機器の利活用講座を新たに設けたところ、**7つのテーマに延べ1,200名が参加**した。

また、高齢者ケアへの適切なシーティングについて理解を深めるため、WHOの協力・連携組織であるISWP(国際車椅子専門家協会)から専門家を招き、映像を使った解説や実演などを交え知識を深める機会となった。

テーマ	講 師
総 論	石山 麗子 氏 国際医療福祉大学大学院 教授
食事(嚥下・食事姿勢)	山口 優子 氏 言語聴覚士
移動(杖・歩行器)	加島 守 氏 高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士
睡眠(起居・ポジショニング)	加島 守 氏 高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士
排泄	牧野 美奈子 氏 NPO 法人 日本コンチネンス協会
移動(車いす)	堀家 京子 氏 公益財団法人 武蔵野市福祉公社、作業療法士
住宅改修	橋本 美芽 氏 東京都立大学大学院 准教授
グローバルセミナー 高齢者ケアに活かす車いすシーティング	アレックス・カマドゥ氏 ISWP 事務局長 クリティカ・カンダベル氏 ISWP プログラムマネージャー 加島 守 氏 ※司会・進行

会場参加者 ステップアップ講座 1,196人 グローバルセミナー 291人

Web 映像公開 令和 6 年 10 月 4 日～11 月 1 日

再生回数：ステップアップ講座／1,672 回、グローバルセミナー／246 回

③ セミナーC<身近な ICT 活用講座 2024>

スマートフォンやパソコンなど身近にある ICT 機器の活用によって、障害者や高齢者の自立生活に活かすアイデアや工夫を紹介した。3 日間で 10 のテーマに 851 名が参加した。

○テーマ

- ・読み書きなどの学習に困難のある人に役立つ ICT の利用と工夫
- ・障害のある人や高齢者の人のためのスマホ・タブレット活用
- ・見えにくさを抱える人の生活に役立つ製品と工夫
- ・重度障害のある人の生活の工夫と機器の利用
- ・聞こえに困難を感じる人に役立つ様々な道具と工夫
- ・福祉における生活支援技術としての生成 AI の活用
- ・ベッドで生活する人の機器利用
- ・e スポーツ×福祉
- ・職場や学校における障害や病気を抱える人への支援とテクノロジーの活用
- ・障害のある人・高齢者の人の生活に役立つ ICT 等の機器利用のポイント

④ セミナーPlusOne<福祉施設の音環境を考える／ふくし未来塾プレゼンテーション>

超高周波を豊富に含む音が「こころ」と「からだ」にポジティブな効果をもたらすハイパーソニック・エフェクト。認知症の興奮症状等への有効性について福祉施設での実証報告がなされた。

また、全社協中央福祉学院が実施している「ふくし未来塾」第 3 期生の代表者から、地域の居場所やコミュニティづくりの事例を発表した。

[1]福祉施設の音環境を考える～ハイパーソニック・エフェクトのもつ可能性～

日 程 令和 6 年 10 月 3 日 (木) 14:30～15:30

講 師 本田 学 氏 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第七部
部長)

会場参加者 60 人

Web 映像公開 令和 6 年 10 月 4 日～11 月 1 日／再生回数：154 回

[2]ふくし未来塾プレゼンテーション～福祉現場の次世代のリーダーが描く未来像～

日 程 令和 6 年 10 月 4 日 (金) 12:00～13:00

発表者 西島 和秀 氏 (社会福祉法人 慈愛会)

水口 浩一 氏 (社会福祉法人 みなと舎)

進行・コメンテーター 山下 興一郎 氏 (全社協 中央福祉学院 主任教授)

会場参加者 50 人

Web 映像公開 令和 6 年 10 月 4 日～11 月 1 日／再生回数：108 回

(3) ニュース発行事業

① 日本語版

- a. 保健福祉 News2024 №4 通巻 173 号 (令和 6 年 8 月 1 日発行、5,700 部)
- b. 保健福祉 News2024 №5 通巻 174 号 (令和 6 年 9 月 2 日発行、5,650 部)
- c. 保健福祉 News2025 №1 通巻 175 号 (令和 7 年 1 月 10 日発行、5,800 部)
- d. 保健福祉 News2025 №2 通巻 176 号 (令和 7 年 2 月 14 日発行、3,000 部)

e. 保健福祉 News2025 №3 通巻 177 号（令和 7 年 3 月 14 日発行、5,800 部）

② 英語版

a. H.C.R.News2025 for English №1（令和 7 年 1 月 10 日発行、Web 公開）

日本語版保健福祉 News はメールマガジン購読者 62,000 人にインターネットを通じて配信するとともに、英語版ニュースを本会海外用 Web サイトに掲載した。

（4）広報・調査研究事業

① 世界の福祉機器市場や福祉等現場における機器有効活用等に関する調査

世界の福祉機器市場と関連動向・状況を把握するため、海外の状況を海外コーディネーターの協力により情報収集して、今後の取り組みに資することにつなぐ。

また、海外で開かれる福祉機器展示会の開催予定に関する情報等を収集し、Web サイトや保健福祉 News で紹介した。

② 福祉機器関連調査の実施

ア) 福祉機器利用者アンケートの実施

福祉機器関連調査のため、ホームページ、メールマガジン、SNS 等を通じて福祉機器利用者アンケートを実施し、福祉機器ユーザーや介護に携わる家族、福祉施設・団体のケアマネジャーなどから 110 件の回答があった。調査結果は、保健福祉 News2025No.3 に掲載し広く関係者への情報提供を行った。

イ) 福祉機器常設展示場調査の実施

福祉機器利用者に国内の福祉機器常設展示場の情報を提供するため、展示場の場所、規模、展示品数などについて調査を実施し、85 か所から回答を得た。

調査で得た結果は、保健福祉 News 及び H.C.R.Web サイトに掲載し、利用者への情報提供を行った。

2. 国際福祉機器展開催事業

（1）国際福祉機器展開催事業

① 「H.C.R.2024 第 51 回国際福祉機器展&フォーラム」の開催

国内外企業・団体の実展示会出展は **402 社・団体**、うち海外企業・団体は **11 개국 2 地域より 50 社**が出展した。

来場者は延べ **120,041 名**となった。来場者分類では**一般が 29%**と最も多く、**福祉施設・老健施設 19%**、**販売業が 14%**、次いで**在宅サービス 12%**、**製造業 10%**と続いている。前年と比較すると**福祉施設・老健施設の割合が 3 ポイント増えた**。

なお、**車いす利用者は 1,800 名余**が来場した。（前年比約 100 名増）

期 日 令和 6 年 10 月 2 日(水)～10 月 4 日(金)

会 場 東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホール 1～6

出展社 11 개국 2 地域 402 社（日本 352 社、海外 50 社）

来場者 120,041 名

配布資料 「H.C.R.2024 会場のご案内」（令和 6 年 10 月 2 日発行、日本語版 80,000 部／英語版 2,000 部）

② 実展示会のライブ配信による情報交流の促進

ポジティブラジオ HCR

福祉機器の展示に留まらない情報交流の場“フォーラム”としての機能を高めるべく、会場内に特設配信ブースを設けオンラインによる生配信を行った。来場者や主催者企画関係者へのインタビュー、視聴者からの投稿紹介、「社会福祉HERO'S」登壇者による対談、福祉のポジティブな魅力を伝えるスペシャルゲストによるトーク番組など、多様なプログラムを終日配信した。

○当日配信閲覧人数／1,541人

○アーカイブ配信 令和6年10月4日～11月1日／のべ再生回数：2,057回

③ 障害への理解促進に資する体験企画の実施

ア) エンジョイアクティブゾーン

障害や年齢を問わず誰もが一緒に楽しめるパラスポーツやeスポーツ等、7つの競技・レクリエーションの体験を実施した。また、会期初日限定で電動車椅子サッカーの試合を開催し、間近で観戦した来場者からの歓声のもと選手たちの白熱したプレーが繰り広げられた。その他、バリアフリーe-Sportsの競技者等の障害当事者が加わってのトークショーも連日行われ、共生社会や障害者の社会参加等について理解を深める機会となった。

体験種目：電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー、ミニフットゴルフ、ウォーキングフットボール、バリアフリーe-Sports、モルック

試合観戦：電動車椅子サッカー（10/2のみ）

運営協力：日本障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ミニフットゴルフ協会、日本ウォーキングフットボール連盟、ePARA、日本モルック協会

イ) モノづくりアートづくしラボトリー

渋谷区の障害者就労支援施設が取り組んでいるモノづくりの体験や、ファシリテーター進行のもと障害者アート作品を来場者どうしが対話しながら鑑賞する「対話型アート観賞」を開催し、多様性への気づきや障害への理解を深める機会となった。

運営協力：シブヤフォント

（障害者就労支援施設：ぱれっと、のぞみ作業所、TENTONE、ストライド ひかわ）

④ 福祉機器に関するトピックスや最新情報の提供

「福祉機器開発最前線」の設置・運営

研究・開発中または開発間もない最先端の福祉機器の展示と、開発企業によるプレゼンテーションを実施した。

<協力企業：7社>

- ・スマーター・インクルージブ・ダンス（東北大学 平田研究室／国立長寿医療研究センター／パラマウントベッド（株）／（株）Shiori）
- ・NextUD Fashion（NEXTUD LAB.（兵庫教育大学小川研究室）／NUD.）
- ・SYNCREO（（株）Raise the Flag）
- ・Loop イヤープラグ・Lamicall ALL LOCK SYSTEM（モダニティ（株））
- ・聴覚拡張ヒアラブルデバイス（京セラ（株））
- ・Ubitone クラブ・Ubitone ポケットブレイル・Ubitone フットナビ・Ubiton ヘルスウォッチ（（株）Ubitone）

- ・スクリー式 3D フードプリンター FP2400 ・食感解析 AI ロボット GelBiter ・低温凍結ゲル粉末 他（山形大学／株式会社 F-EAT）

⑤ 防災意識向上のための情報提供

“もしも”に備える防災展

令和 6 年能登半島地震の発災による防災意識の高まりを受け、大規模災害時に必要となる仮設の住空間・ベッド・トイレ、水、食事等、被災地で実際に活用された製品を中心に実展示を行った。また、災害ボランティアや DWAT（災害派遣福祉チーム）などの取り組みもパネル展示し、被災地で行われている災害支援の現状を発信した。

<協力企業：5 社>

- ・[段ボールベッド] QUICK BASE 他（(株) エスパック）
- ・[住空間] 屋内用インスタントハウス（名古屋工業大学北川啓介研究室）
- ・[非常食] 長期保存食ライフスープ（(株) ベジタルアドバンス）
- ・[非常用浄水器／災害支援車] コックン飲めるゾウ・コックンレスキュー（(株) ミヤサカ工業）
- ・[災害用トイレ] ラップポン・トレッカー（日本セイフティ（株））

⑥ 福祉の仕事の魅力発信と相談受付

ふくしの魅力発見ゾーン

福祉業界で働く若手を中心とした 17 名にインタビューを行い、利用者との関わりで生まれたエピソードや自身の思いを綴った巨大パネルを制作・展示し、学生等の若年層の来場者が福祉へかかわるきっかけの場を提供した。

また、エピソード集「CREATIVE～17 人の若者が語る、福祉のリアルな経験と心の声～」を 1,000 部制作し会場内で配布した。また、福祉の魅力に関するアンケートも実施し、1,013 名からの回答を得た。

あわせて近郊 1 都 3 県の福祉人材センターの協力を得て、「福祉の仕事なんでも相談」を実施した。

⑦ 福祉サービス利用者への福祉機器情報の提供ならびに相談受付

ア) 子ども広場

情報保障を体験できる「ろう学校の模擬教室」やスマホひとつで操作できる「スマートルーム」の設置のほか、関連のデジタル機器の展示・体験、座位保持関連の機器の展示・体験等を行うとともに、専門家による療育、リハビリ相談を実施した。（運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、東京都）

イ) 福祉用具相談～福祉機器・自助具のお困りごとはこちら！～

「福祉機器の利用」や「自助具」に関する相談コーナーを設け、理学療法士、作業療法士、社会福祉士や自助具作成の専門家が来場者の相談に応じた。（運営協力：日本作業療法士協会、自助具の部屋）

ウ) もっと知って！ほじょ犬

補助犬に関する理解を深めるためのパネル展示のほか、「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」3 種のデモンストレーションを実施した。（運営協力：日本身体障害者補助犬学会）

⑧ 出展社プレゼンテーションの開催

H.C.R.2024 に出展社プレゼンテーションの場を設け、出展社の企画・運営によるセミナー

実施とプレゼンテーション映像の公開により、閲覧者への情報提供を行った。

期 日 令和6年10月2日(水)～10月4日(金) ※Web展も同様
参加出展社数 24社・団体

⑨ 出展企業・団体表彰の実施

国際福祉機器展に通算15回出展いただいた企業・団体に対し感謝の意を表するため、会期初日に贈呈式を開催し、古都賢一保健福祉広報協会理事長より記念の盾の贈呈を行った。

《15回出展感謝状贈呈企業(国内9社)》

1 アイホン(株) 2 三協エアテック(株) 3 (株)シモヤマ 4 (一社)全国福祉用具専門相談員協会 5 田辺プレス(株) 6 (株)テラモト 7 トクソー技研(株) 8 (株)レイクス 21 9 (独)労働者健康安全機構 吉備高原医療リハビリテーションセンター

※ 以上、社名五十音順

⑩ ビジュアルデザイン制作と記念オブジェとしての活用等

山本基氏の作品「紫の季節」を採用し、ポスターやリーフレット等を制作・配布するとともに、オープニングセレモニー会場にて来場者のための記念フォトスポットのオブジェとしても活用した。

⑪ 来場や移動支援・情報保障への取り組み

会場内の移動に不安のある来場者に対して、「車いす・移動支援機器貸出コーナー」を設け、6社の出展社の協力を得て、計33台を貸し出した(延べ254台貸出)。

また、障害のある方や歩行に困難がある方を対象とする専用駐車場を確保するとともに、国際展示場駅と会場をつなぐシャトルバスを運行し送迎を行った。

手話通訳とガイドヘルパーの常時配置に加え、新たにスマートフォンを利用して手話通訳者を介して出展製品の説明を受ける「遠隔手話サービス」を実施した(延べ72名利用)。

⑫ 障害福祉サービス事業所の授産品の販売等

日本セルフセンターおよび障害者就労支援事業所が運営する「セルフショップ&カフェ」を実展示会場内に設けた。また、能登半島地震等の被災地での障害者就労支援施設・事業所で生産された SELP 製品も販売し完売するなど好評を得た。(運営協力：ヒールアップハウス晴れ晴れ)

⑬ プレス向け広報活動

展示会の情報をマスメディアにより広く周知することを目的に、新聞(全国紙、スポーツ紙等)通信社、TV、一般雑誌、介護関連誌等、約400社にプレスリリースを配信した(計2回)。また、新たにSNSを活用した広報活動を展開し、Google、Facebook、Instagramへの広告掲載を実施したところ、約157万回の閲覧を記録した。

○プレス取材：来場247名108件、テレビ、新聞・雑誌、Web掲載182件

(2) 福祉機器／保健福祉情報提供事業(H.C.R.Webサイト等による事業)

① H.C.R.Web2024の開催

H.C.R.実展示会の開催とともにハイブリッドな取り組みとして、H.C.R.Web2024を令和6年9月2日(月)～11月1日(金)の間開催した。オンライン上で402社・団体の1,600点以上の製品情報を掲載したところ、1,956,968ビューの閲覧を得た。2020年の初

開催以降 4 年が経過し、実展示会の来場前・後に出展製品や出展社の情報を収集・整理するツールとして定着しつつある。

また、実展示会で開催した国際シンポジウム、セミナーA、セミナーB、PlusOne およびポジティブラジオの**アーカイブ配信では、6,661 ビューの閲覧**を得た。

なお、掲載した福祉機器情報は、出展社の同意を得てさらに令和 7 年 3 月 31 日(月)まで延長公開し**2,047,920 ビュー**の閲覧を得た。

② スマートフォンアプリの活用

会場内での利便性と回遊性の向上を目的に H.C.R.アプリを導入しており、**累計で 36,689 件のダウンロード**があった。アプリ内では、ゾーンマップと現在地のリンクや、セミナー開催前のプッシュ通知、スタンプラリーなど、H.C.R.をより快適に楽しく参加していただくための機能を実装している。

③ ソーシャル・ネット・ワーキングサービス (SNS) の活用

幅広い分野の方に対して本会の事業ならびに H.C.R.を周知し、国内外の福祉機器に関する有益な情報の提供や、介護・福祉・保健など社会保障分野の啓発・向上を図るため、Facebook と X(旧 Twitter)で情報を発信した。

○Facebook 投稿回数 56 回、閲覧数 16,420 ビュー

○X 投稿回数 130 回、閲覧数 270,000 ビュー

④ メールマガジンの発信

過去の来場者等のうちメールマガジンの登録者約 62,000 人に対し、計 9 本発信した。

3. 会務の運営

(1) 理事会の運営

① 第 187 回理事会 令和 6 年 6 月 3 日 (月)

第 1 号議案 令和 5 年度事業報告ならびに決算について

② 第 188 回理事会 令和 6 年 10 月 2 日 (水)

報告事項 H.C.R.2024 第 51 回国際福祉機器展&フォーラム開催内容について

③ 第 189 回理事会 令和 7 年 3 月 17 日 (月)

第 1 号議案 令和 7 年度事業計画 (案) ならびに収支予算 (案) について

(2) 評議員会の開催

① 第 42 回評議員会 令和 6 年 6 月 26 日 (水)

第 1 号議案 令和 5 年度事業報告ならびに決算について

② 第 43 回評議員会 令和 6 年 10 月 2 日 (水)

報告事項 H.C.R.2024 第 51 回国際福祉機器展&フォーラム開催内容について

③ 第 44 回評議員会 令和 7 年 3 月 17 日 (月)

第 1 号議案 令和 7 年度事業計画 (案) ならびに収支予算 (案) について

(3) 監事会の開催

令和 6 年度監事会 令和 6 年 5 月 27 日 (月)